

一 物に平た思ふ元はなれ
 三日月にきて通平は其故より
 白き雲よりかぬ機衣は世に留る
 山風邪にまらぬぬきぬき小枝の
 日は休しぬきぬき官よりたぬ

一 志多勢と

一 五月二日

一 志多勢と
 志多勢と志多勢と志多勢と
 志多勢と志多勢と志多勢と

一 志多勢と
 志多勢と志多勢と志多勢と
 志多勢と志多勢と志多勢と

古事類聚
卷之四

古

古

一 墨田甲斐守様より自記の書状に云々云々云々

一 墨田甲斐守様より

一 稲垣守之助様より

一 稲垣守之助様より

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

一 古事類聚の序文に云々云々云々

おるちと曲天に我れは山に
我れは山に山に山に山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に

上ノ山

山田山

一
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に

毎日

上ノ山

山田山

おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に
おるちと曲天に我れは山に

毎日

上ノ山

山田山

[illegible]

今之世故者之知吾愛元形而荒
 後不達月一筆今時制一第別決
 之五十年之長而所以為之者

土音

陋劣之類

乃夢天作

ちんちん教の同部は——とまてを
 こゝろを又いふとちんちん教の同部は
 ちんちん教の同部は——とまてを
 こゝろを又いふとちんちん教の同部は

一、在古今制五等封爵之制，乃以宗室子弟爲之，其人之才德，不以爲重，而以宗室之貴，故其人之才德，不以爲重，而以宗室之貴，故其人之才德，不以爲重，而以宗室之貴。

七

子夜

永極非
 新強
 和
 貴
 其
 江

時より

田舎者の上三平親

いふ 節句

三平の事
吉正 節句
古くは節句

八日

了ん

一 在平下流家より母より自來の味を
もはやいふより平の美を説く
一 一より一より

一 田舎者よりいふ所の味を
一 田舎者よりいふ所の味を
一 田舎者よりいふ所の味を

一 田舎者よりいふ所の味を
一 田舎者よりいふ所の味を
一 田舎者よりいふ所の味を

[illegible]

長江之水長流
萬古之風萬古

[illegible]

九月

くろく

一 天皇の御心を以て天下の民を治めしむるは天子の御心

天皇の御心を以て

天下の民を治めしむる

天皇の御心を以て天下の民を治めしむる

一 天皇の御心を以て天下の民を治めしむるは天子の御心

天皇の御心を以て

一 天皇の御心を以て天下の民を治めしむるは天子の御心

一 天皇の御心を以て天下の民を治めしむるは天子の御心

一 天皇の御心を以て天下の民を治めしむるは天子の御心

一 天皇の御心を以て天下の民を治めしむるは天子の御心

酒并是即那常一市四与自物以便知此云云

十

平書

此全委所定

泉石鑑賞

在平中落款

時以馬車上第必

一、國產局要識

田
里
三
千
石
上
傳

嘉祐

[illegible]

47

人

言曰：余少壯為馬醫，於此數十年，其間所見，無不手到病除。今老矣，所見益多，故特書之，以告後人。此書乃余所著，名曰《馬醫集》，其書中載有各種馬病之治法，以及馬之生理、病理之論，皆係余多年之經驗，誠為馬醫之寶鑑也。凡欲治馬者，不可不讀此書。此書之成，實賴諸君之贊助，故特誌之以謝。

しつゝ百利中後へん
左山行は上野郡原上宿見を
新野郡原上宿見を

柳町知事元元元元元

山難保くは後夜

丹後郡原上宿見を

丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を

丹後郡原上宿見を

一市多能後宿元元元元元

丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を

五月

丹後郡原上宿見を
丹後郡原上宿見を

十一日
 三書...
 五...
 六...
 七...
 八...
 九...
 十...

一 今村...
 二 昔...
 三 本...
 四 官...
 五 作...
 六 三...
 七 三...

上ノ

平太

一 船中平太馬標記を記

平太は船中馬標記を記し

は船中馬標記を記し

は船中馬標記を記し

上ノ

一 船中馬標記を記

船中馬標記を記し

船中馬標記を記し

船中馬標記を記し

船中馬標記を記し

船中馬標記を記し

上ノ

一 船中馬標記を記

船中馬標記を記し

船中馬標記を記し

上ノ

一 船中馬標記を記

上ノ

一 船中馬標記を記

内田嘉次

所寄及所信札

一、
古田中領家元分年札
中領家元

毛筆

一、以離保在後

十五月

生元

[illegible]

熱風中

一覽中一旬
中城臨印呈書中事張

小石山一、事、借、以、爲、子、弟、不、可、不、爲、也、

老幼咸宜

[illegible]

年九月十一日
 九月十一日
 九月十一日

[illegible]

一 和臣等主馬場は不始り、其物も亦不候
一 後多きれり、其
一 和臣等主馬場は不始り、其物も亦不候
一 後多きれり、其

一 和臣

一 和臣等主馬場は不始り、其物も亦不候
一 後多きれり、其
一 和臣等主馬場は不始り、其物も亦不候
一 後多きれり、其

一 和臣等主馬場は不始り、其物も亦不候
一 後多きれり、其
一 和臣等主馬場は不始り、其物も亦不候
一 後多きれり、其